

HPVワクチン接種行動に影響を及ぼす知識・認知・感情要因

主観的規範，周囲接種者有無，HPVワクチン一般知識の重要性

○上市秀雄¹・謝婧雅²（非会員）

¹筑波大学システム情報系・²ニフティ株式会社



ueichi@sk.tsukuba.ac.jp

背景

◆子宮頸がん

- 子宮頸がんは、子宮がんのうち約70%をしめる（日本産婦人科学会，2018）
- 子宮頸がん発症者は年間約11,000人，死亡者約2,900人，近年20～39才の患者が増加傾向。35-39歳がピーク
- 20歳代から罹患率が増加。30歳までに年間約1,000人の女性が治療で子宮を失う
- 一生のうちで子宮頸がんになる人は1万人当たり132人（厚生労働省，2023）

◆Human Papilloma Virus Vaccine（日本産婦人科学会，2018；厚生労働省，2023）

- 子宮頸がんの原因のほとんどであるHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を予防可能
 - サーバリックス（2価，GSK社）：HPV感染症（16,18型）を50～70%予防
 - ガーダシル（4価，MSD社）：HPV感染症（16,18型）および，尖圭コンジローマなどを起こすHPV感染症（6,11型）を50～70%予防
 - シルガード9（9価，MSD社）：HPV感染症（16,18型）および31型、33型、45型、52型、58型を90%以上予防（2023年4月より公費可）
- WHOも接種を推奨。2020年11月時点で110カ国で公的な接種を実施（カナダ、イギリス、オーストラリアなどの接種率は約8割）
- 接種推奨年齢：12～16才（小学6年生から高校一年生）の女子
- 安全性・有効性：副反応報告のほとんどはHPVワクチンとの因果関係がなし。接種率が高くなると集団免疫効果もあり。
- 安全性が確認されているにもかかわらず，2013年3月のマスコミ報道をきっかけに，接種率が報道前の70%から1%未満に激減

◆2022年4月 HPVワクチン接種の積極的推奨再開

- 積極的接種推奨再開後～2022年7月までの接種率は，10政令市で16.6%と低いまま（関西テレビニュース，2022）

◆上市・謝（2019）

- 接種意図を規定している要因（接種態度）は明らかにしているが，「接種行動」に影響する要因は不明

HPVワクチン接種率を高めるためには、接種推奨者の「接種行動」を促進・抑制する要因を明確化する必要あり

目的

◆積極的推奨中止前、中止中、再開後接種、未接種者の差異の検討

- 2013年6月以前接種者、2013年7月-2022年3月接種推奨中止中接種者、2022年4月以降接種推奨再開後接種者、2018年11月時点未接種者、および、2023年2月時点未接種者、5群における各要因の差異を検討

◆HPVワクチン接種行動に影響する要因の解明

- HPVワクチン接種者と未接種者を従属変数、各要因を独立変数として、ロジスティック回帰分析を行い、接種行動に及ぼす要因を解明

方法

◆Web調査

- 2018年11月（15-20歳女性500名）、2023年4月（15-25歳女性582名）
- | | | |
|-------|---------------------------|------|
| 使用データ | 2013年6月以前接種者 | 175名 |
| | 2013年7月-2022年3月接種推奨中止中接種者 | 251名 |
| | 2022年4月以降接種推奨再開後接種者 | 149名 |
| | 2018年11月時点未接種者 | 209名 |
| | 2023年2月時点未接種者 | 876名 |

◆質問項目（上市・謝，2019；5段階評定（知識以外））

- HPVワクチン知識（正解不正解の二値で測定、合計点を項目数で割った）
 - ・一般知識10項目（HPVワクチンは子宮頸がん予防に役に立つ）
 - ・最新知識20項目（女性の50%～80%以上は生涯で一度はHPVに感染）
- 情報収集5項目（公的機関，病院，ニュースなど）
- 情報源21項目（HPVワクチン副反応7項目，有効性7項目，がん7項目）
- 予期後悔（接種せずにがん2項目，接種して副反応1項目；上市，2022，中公新書）
- 副反応不安・リスク4項目（副反応が怖い）
- ワクチン公共有効性3項目（公衆衛生に有効）
- 副反応生じない2項目（自分には副反応は起きないと思う）
- ワクチン接種不必要4項目（100%予防できないので不要だ）
- 主観的規範5項目（家族は接種に好意的）
- 周囲接種者の有無2項目（家族や知人に接種者がいる、予定者がいる）
- 接種苦悩1項目（接種するかどうか悩んでいる）
- 接種意図1項目（接種したい（接種者の場合、未接種なら接種したい））
- 自治体への要望8項目（積極的に推奨してほしい）
- その他：クリティカルシンキング15項目（上市・楠見，2006）など

結果

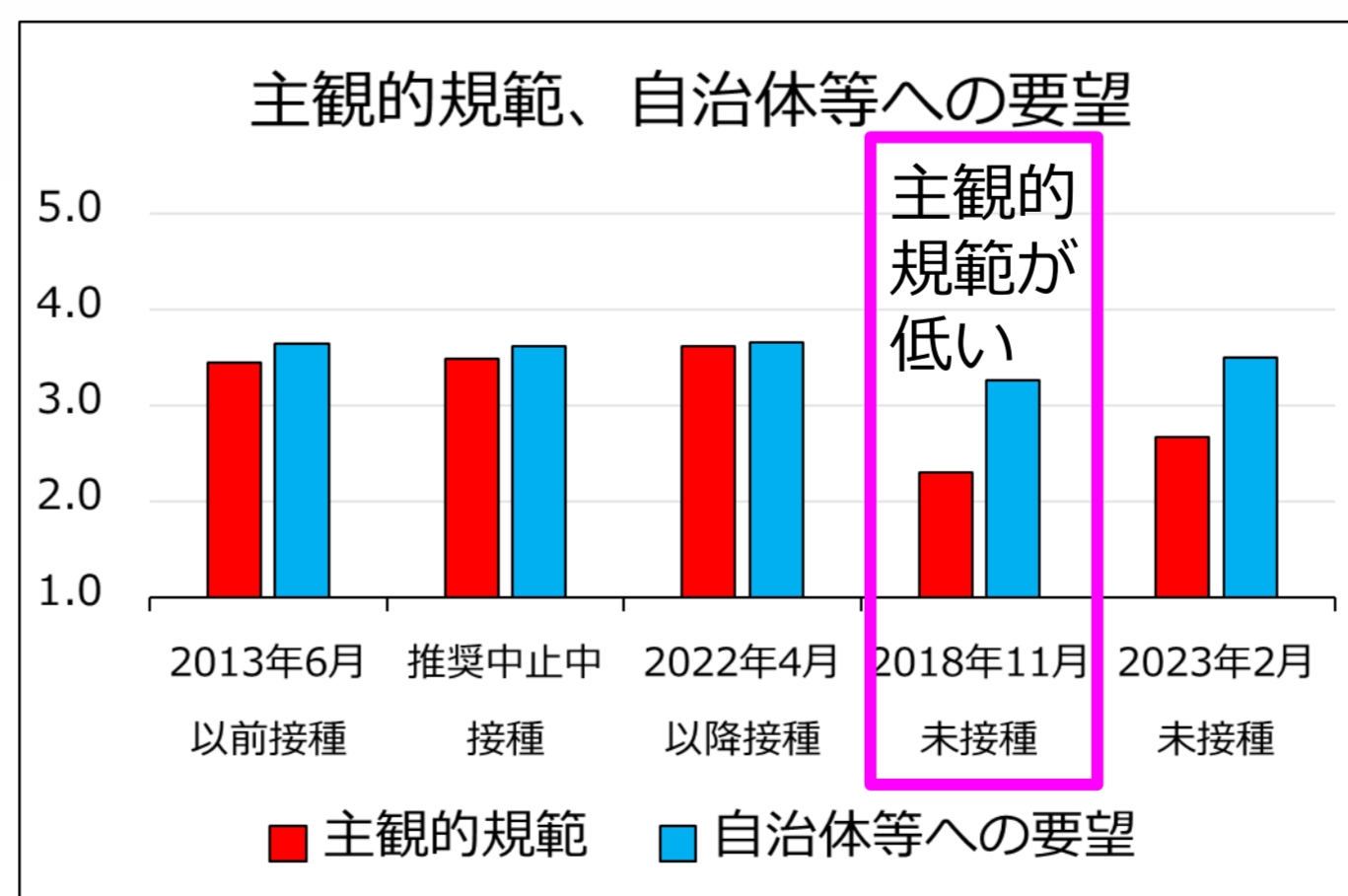
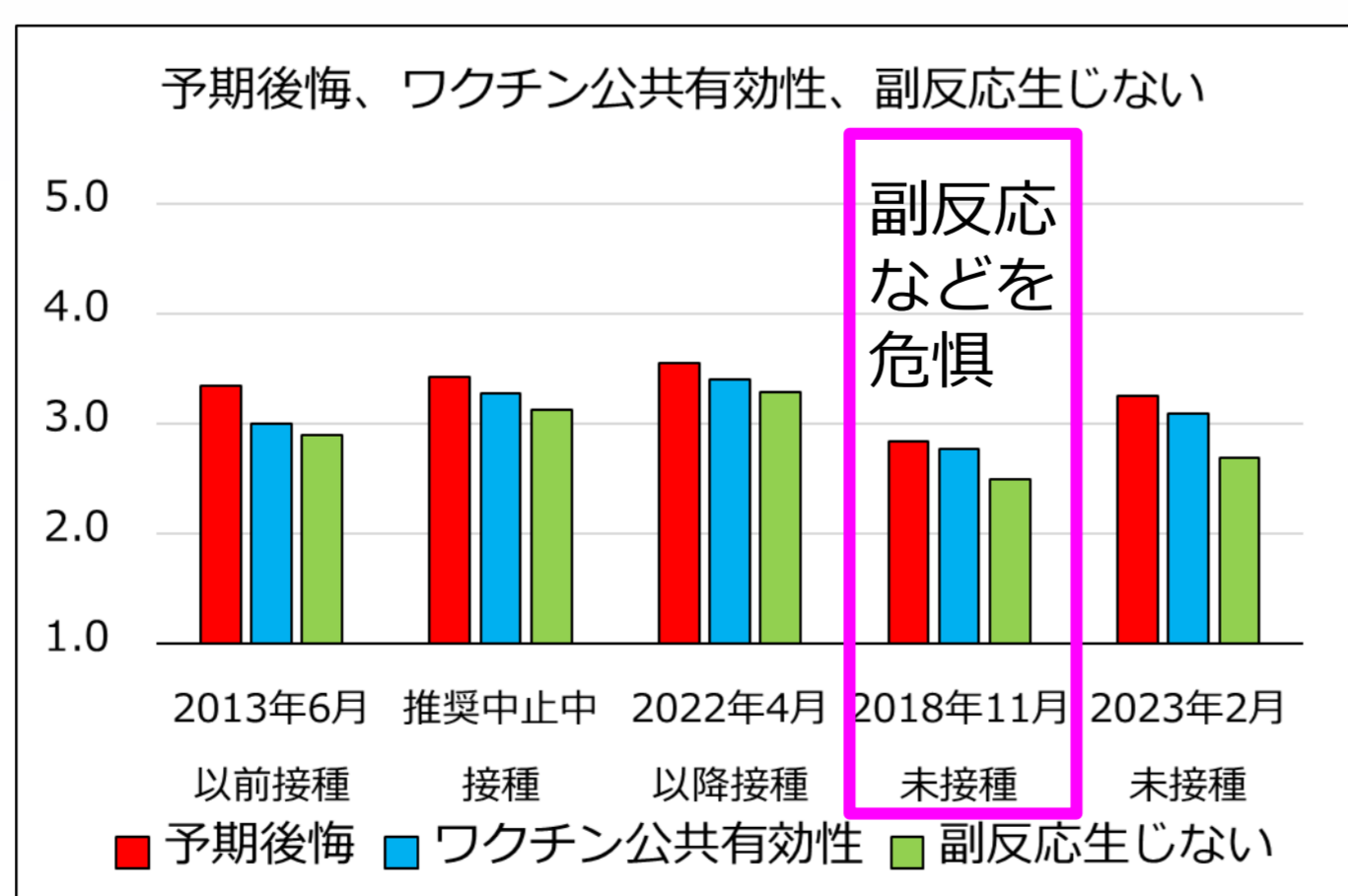
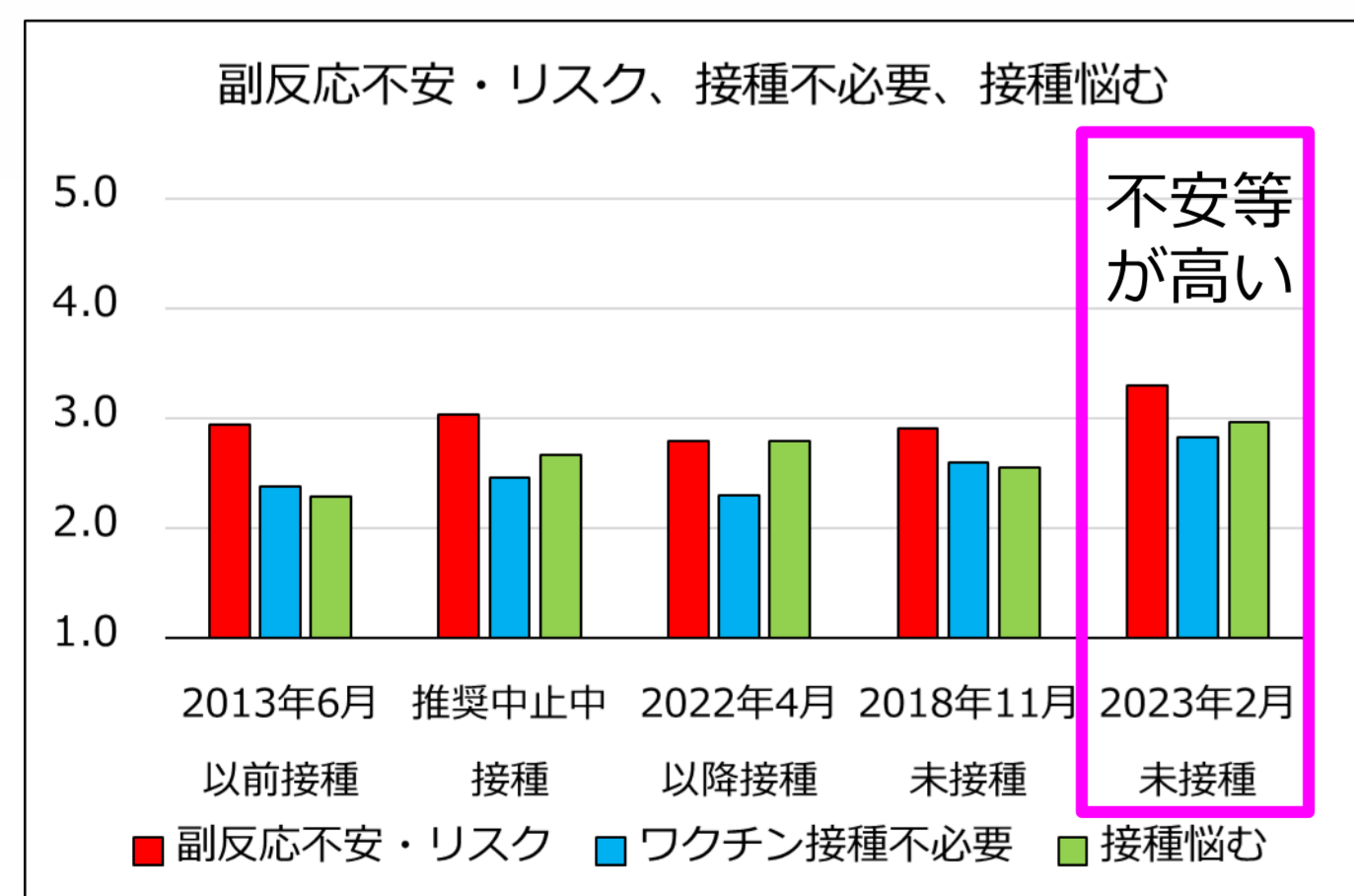
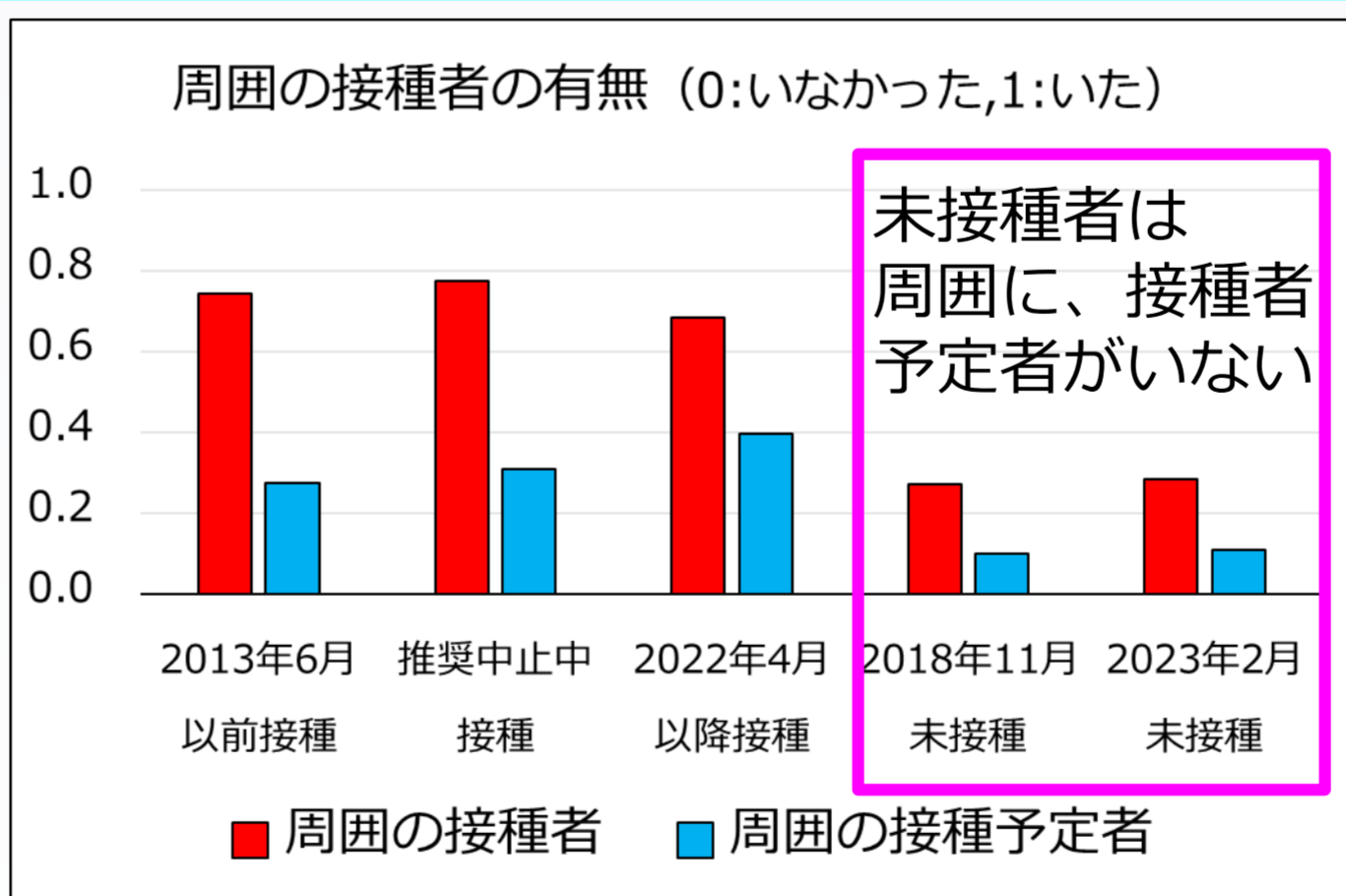
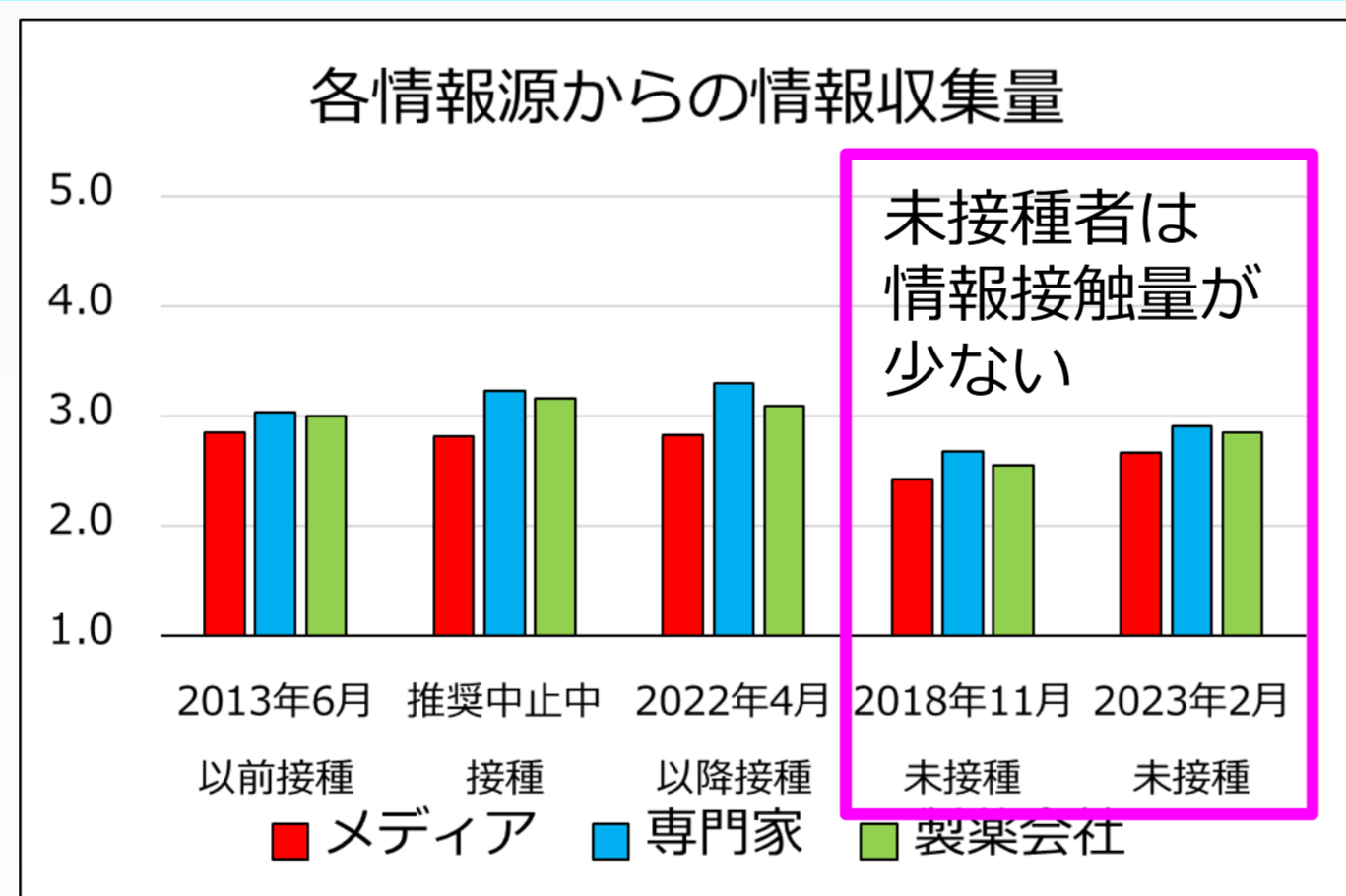
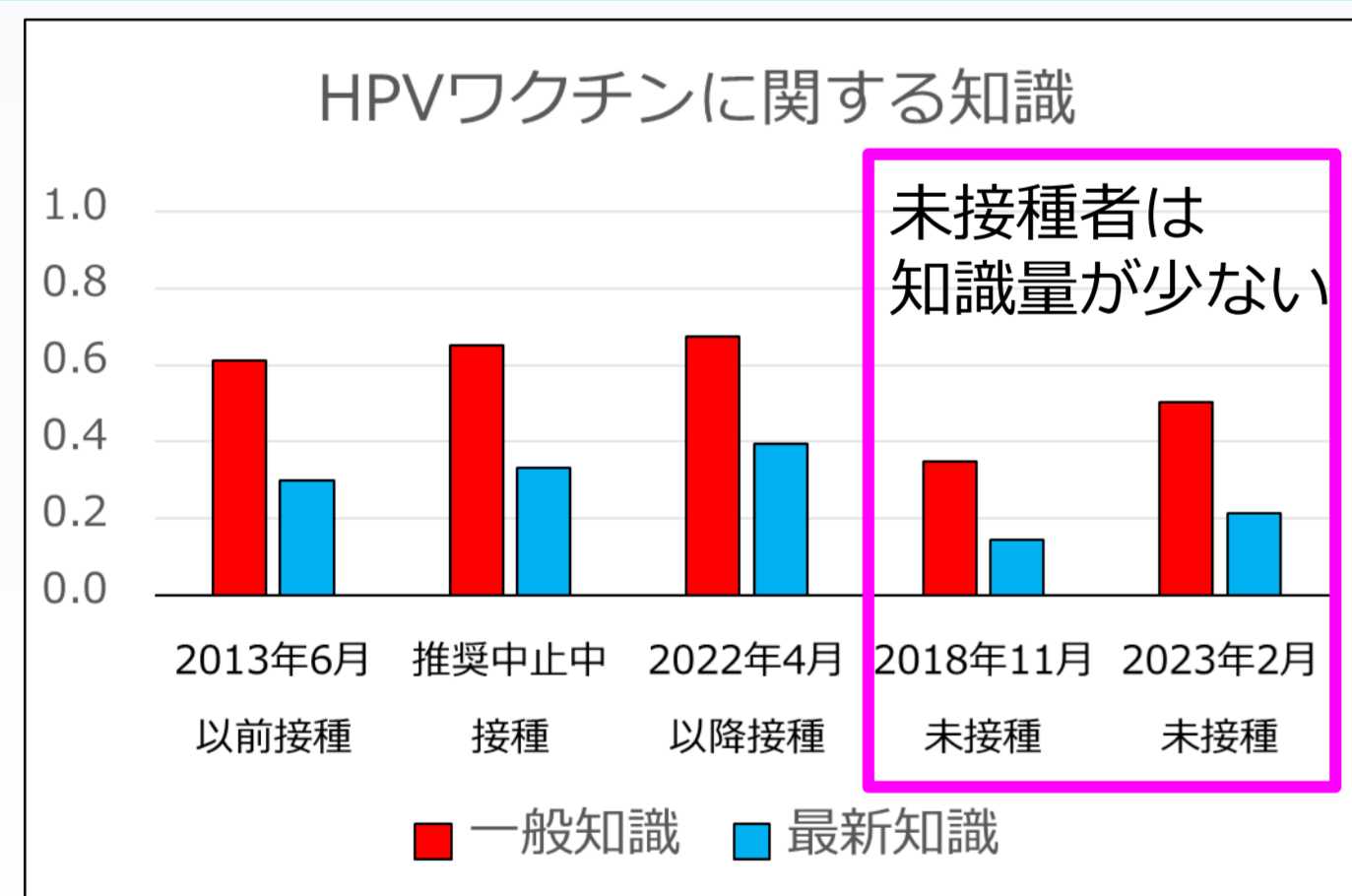


図1 各項目の合計値の平均および分散分析の結果

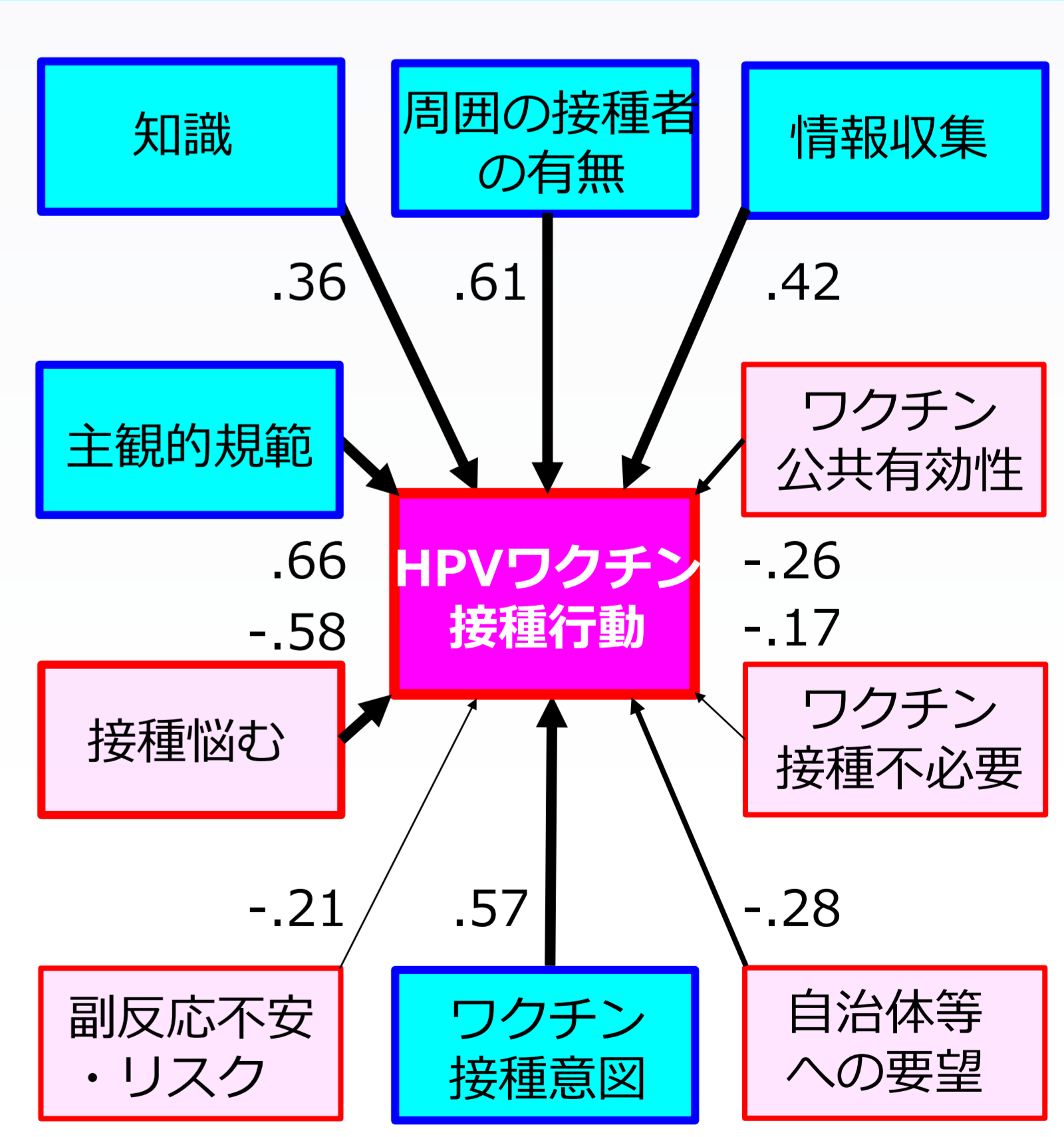


図2 ロジスティック回帰分析の結果（正解割合80.2%）

考察

- ◆接種者は未接種者より、HPVワクチンに関する知識があり、接種の悩みがなく、情報収集量が多く、主観的規範高く、周囲に接種者が多い
- ◆HPVワクチン接種行動は、主観的規範（家族や周囲の人たちが接種を望んでいるなど）や周りに接種者がいるかどうかが大きく影響する
- ◆加えて、HPVに関する知識（最新知識よりわかりやすい知識の方がよい）やメディアや専門家から得た情報量も重要な要因でもある

HPVワクチン接種率改善のためには、家族等からの勧め、接種の悩み解消、メディアや専門家から情報提供を増やす必要がある